

投稿の手引き

原稿

原稿は図、写真、表を含め、すべて A4 サイズの用紙を使用し、横書きとする。本文、表、要旨は、12 ポイント 1 ページ 25 行程度で明瞭に印刷したものとする。

字体の指定

原稿中のイタリック体、スモールキャピタル体、ボールド体などの特殊な字体 (文字飾り)、ギリシャ文字、特殊な記号、上付きあるいは下付き文字などは、それらの字体で作成し印刷する。該当する字体がない場合は、イタリック体は一重アンダーライン、スモールキャピタル体は二重アンダーライン、ボールド体は波線アンダーラインによって指定し、ギリシャ文字、特殊な記号、上付きあるいは下付き文字などは、その旨明瞭に指定する。これらの指定はオリジナル原稿 1 部に朱書する。

構成

和文表題 (英文の場合は不要)、和文著者名 (英文の場合は不要)、英文表題、英文著者名、柱文用略題、表題・著者に関する脚注を 1 ページに、英文要旨とキーワードは 2 ページに記載し、本文は 3 ページからはじめる。本文の後、図説明文を付ける。1 枚目 (表紙) から、末尾の図説明文まで一連のページ番号を付ける。

表題

英文の主表題は、接続詞、冠詞および前置詞以外は、首字のみ大文字、その他は小文字とする。副表題は、題名の最初の語の首字のみ大文字、その他は固有名詞以外は小文字とする。また、表題は **open system** (最後にピリオドを付けない) とする。表題の字体はゴシックとする。なお、学名が表題中にあるときは、首字のみイタリックキャピタルで、その他はイタリックスモール、命名者は首字のみ普通大文字で、その他は小文字とする。

著者名および所属名

英文の著者名は、名前は首字のみ大文字で他は小文字、姓は首字のみ大文字で他はスモールキャピタルとする。著者が 2 人の場合は「and」で、3 人の場合は「, 」でつなぎ、最後は「and」でつなぐ。和文はすべて「・」でつなぐ。各著者の所属は脚注に書く。

【著者名の例 1】英文論文の場合

Gerald F. QUINTIO^{1,2}, Akihiro TAKEMURA¹ and Akira Gomi³

【著者名の例 2】和文論文の場合

布田 彰彦¹・原 博敏²・山崎 晃¹

【所属名 (脚注) の例 1】英文論文の場合

¹ *Laboratory of Aquaculture Biology, Faculty of Fisheries Sciences, Hokkaido University*

(北海道大学大学院水産科学研究院増殖生物学分野)

² *Present address: Aquaculture Department, Southeast Asian Fisheries Development Center, Tigbauan, Iloilo 5021, Philippines*

³ *Laboratory of Marine Biology and Biodiversity, Faculty of Fisheries Sciences, Hokkaido University*

(北海道大学大学院水産科学研究院海洋生物学分野)

【所属名 (脚注) の例 2】和文論文の場合

¹ 北海道大学大学院水産科学研究院増殖生物学分野

(*Laboratory of Aquaculture Biology, Faculty of Fisheries Sciences, Hokkaido University*)

2) 北海道大学大学院水産科学研究院海洋生物学分野

(Laboratory of Marine Biology and Biodiversity, Faculty of Fisheries Sciences, Hokkaido University)

柱文用略題

柱文用略題は、著者姓を含めて英文 62 字、和文 30 字以内とする。著者が 2 人のときは、英文は「&」で、和文は「・」でつなぎ、3 人以上のときは、英文では YOSHIDA et al., 和文では斎藤ら、のように 2 人目以下は略す。英文表題の略題は最初の文字および固有名詞の首字のみ大文字とする。ピリオドは付けない。

【柱文用略題の例 1】英文論文の場合 (コロンは全角)

KOMAI & AMAOKA : Decapod crustacean from the Okhotsk coast

【柱文用略題の例 2】和文論文の場合 (コロンは全角)

布田ら : サクラマス血清の免疫グロブリン精製および定量

英文要旨およびキーワード

英文要旨 (Abstract) は、200 語以内の長さにすることが望ましい。キーワードは英語で 3~10 個 (1 個は 3 語以内) を選定する。前置詞・冠詞は含めない。また、キーワードを構成する各語はすべて最初の文字を大文字、他は小文字とする。また、最後の語は単数形の名詞とする。

【キーワード例】

World revision, Zoogeography, *Oncorhynchus keta*, *Salvelinus*

本文の体裁

(1) 文中の句読点は「。」および「,」を使用する。

(2) 本文の区分けは、大・中・小見出しを使用して明確にする。いずれの見出しのあとも、それに続く文章は行を変え、1 コマあける。

大見出し：行の中央に書く。和文はゴシック、英文はボールドとし、番号は付けない。

中見出し・小見出し：左端に書く。和文はゴシック、英文はボールドとし、原則として番号は付けない。番号を付ける必要のあるときは、アラビア数字とし、ピリオドを付ける。

(3) 動植物学名の属と種はイタリック (subsp., var. などの字はイタリックにしない) とする。

(4) 英文の人名は首字のみ大文字、そのほかは普通小文字とする。

(5) 和文中、動植物普通名 (和名)、そのほか特殊の語はカタカナで書く。

(6) 英文中の日本語、ラテン語は“ ”で囲むか、イタリック体とする。ただし、i.e., e.g., etc., viz., et al.などの普通に用いられるものは普通文字とし、イタリックにしない。

(7) 物理量を表す記号にはイタリック体を用いる。ベクトル量の記号はボールドのイタリック体を用いる。

単位

数量の単位は SI 単位を原則とする。

数式

式番号は各式の右端に (1), (2) ……のように通し番号を付ける。

図および表の引用

図および表は和文論文においてもそれぞれ Fig. 1, Table 1 のように引用する。

文献の引用

文中で文献を引用するときは下記による（英文和文ともにセミコロンは全角，和文引用のコンマは全角）。

【文献引用の例 1】 著者が 1 名の場合

………ことが報告されている（田中，1992；吉田，1993）。

……… have been reported (Tanaka, 1992 ; Yoshida, 1993).

田中 (1992), 吉田 (1993) によれば………

According to Tanaka (1992) and Yoshida (1993), ………

【文献引用の例 2】 著者が 2 名の場合

………ことが報告されている（荒井・井上，1992）。

……… have been reported (Arai and Inoue, 1992).

荒井・井上 (1992) によれば………

According to Arai and Inoue (1992), ………

【文献引用の例 3】 著者が 3 名以上の場合

………ことが報告されている（上野ら，1993）。

……… have been reported (Ueno et al., 1993).

上野ら (1993) によれば………

According to Ueno et al. (1993), ………

脚注

脚注が必要なときは，関係する本文中の語に上付きで 1), 2), … を付し，同じ原稿用紙の下段に朱線で区切り，「脚注」と朱書してその説明を書く。脚注は多用せずに最小限にとどめる。

図

図は A4 版の白紙を使用し，1 枚に 1 図ずつ描く。各図の右下すみに著者名，図番号を記入する。図番号は英文・和文いずれの論文中においても Fig. 1, Fig. 2 … のように表す。写真も図として取り扱う。

表

表は A4 版の白紙を使用し，1 枚に 1 つずつ印刷したものとする。表題も含めすべて英文とし，各表の右下すみに著者名を入れる。ケイ線の使用は最小限とし，特にタテケイ線は原則として使用しない。表説明文は closed system とする。図，表の挿入希望位置を本文の右欄外に指定する。

参考文献

参考文献のリストは本文の最後一括して記載する。文献は番号を付けず，著者姓のアルファベットと発表年の順に並べる。同一著者の場合でも著者名は文献ごとに書く。リストの文献の表し方は次のようにする（┌部分は半角スペース，□部分は全角スペースの意味）。

(1) 通常の雑誌の場合

①洋雑誌

著者名┌(発行年)┌┌論文表題┌┌誌名 (イタリック体),┌卷 (ボールド体, 号は省略),┌通巻ページ.

②和雑誌

著者名┌(発行年)□論文表題. 誌名, 卷 (ボールド体, 号は省略),┌通巻ページ.

【参考文献リストの例 1】

- Iwata, M., Komatsu, S., Collie, N.L., Nishioka, R.S. and Bern, H.A. (1987a) Ocular cataract and incomplete seawater adaptation in salmonids. *Aquaculture*, **66**, 315-317.
- Iwata, M., Nishioka, R.S. and Bern, H.A. (1987b) Whole animal transepithelial potential (TEP) of coho salmon during the parr-smolt transformation and effects of thyroxine, prolactin and hypophysectomy. *Fish Physiol. Biochem.*, **3**, 25-38.
- Okamoto, H. (1990) Notes on the demersal fishes from Hakodate, Hokkaido. *Japan. J. Ichthyol.*, **37**, 123-128.
- 朴 容石・桜井泰憲・向井 徹・飯田浩二・佐野典達 (1994) 飼育下におけるスケトウダラの繁殖行動に伴う鳴音. 日水誌, **60**, 467-472.

(2) 巻がない雑誌の場合

①洋雑誌

著者名_(発行年)_(論文表題)_(誌名 (イタリック体))_(号)(カッコを付け, ボールド体)_(ページ).

②和雑誌

著者名_(発行年)_(論文表題)_(誌名, (号)(カッコを付け, ボールド体))_(ページ).

【参考文献リストの例 2】

- Maisey, J.G. (1986) Anatomical revision of the fossil shark *Hybodus fraasi* (Chondrichthyes: Elasmobranchii). *Amer. Mus. Novi.*, (**2857**), 1-16.
- 高野和寛 (1992) マナマコ人工種苗生産技術について. 育てる漁業, (**233**), 1-10.

(3) 論文集の場合

①洋書

著者名_(発行年)_(論文表題)_(掲載ページ)_(論文集編者名)_(論文集表題 (イタリック体))_(発行機関)_(発行地).

②和書

著者名_(発行年)_(論文表題)_(掲載ページ)_(論文集編者名)_(論文集表題)_(発行機関)_(発行地).

【参考文献リストの例 3】

- Eastman, S. and Jones, J. (1993) The deep-sea benthic ichthyofauna from the continental shelf of Japan. pp. 215-219, Westman, T. and Jackson, S. (eds), *Zoogeography of deepsea fishes*, Smithsonian Press, Washington, D.C.
- 内海富士雄 (1965) ワレカラ科. pp. 578-581, 岡田要・内田清之助・内田亨 (編), 新日本動物図鑑, 北隆館, 東京.

(4) 単行本の場合

①洋書

著者名_(発行年)_(書名 (イタリック体))_(出版社)_(発行地).

②和書

著者名_(発行年)_(書名)_(出版社)_(発行地).

【参考文献リストの例 4】

- Maruyama, M. (1994) *Fishes of the north Pacific* (in Japanese). Hokuryukan, Hakodate.
- 農林統計協会 (1999) 図説漁業白書 (平成 10 年度版). 農林統計協会, 東京.

図説明文

図説明文は和文論文においても英文とし、一括して図番号順にタイプ打ちしたものを付す。

【図説明文の例】

Figure Captions

Fig. 1. Map of Funka Bay and offshore, showing localities and contours of depth (m).

Fig. 2. Distribution of sea bottom sediments in Funka Bay and offshore. ○: data from this study, ●: data from Hydrographic Department, Maritime Safety Agency, Japan (1981).

電子付録

電子付録は、論文に関連する、あるいは報文に掲載できなかったデータ、図、表の電子ファイルを当該論文の補足資料として HUSCAP 上で提供するものである。データ、図、表は、Acrobat Reader, Word あるいは Excel 等のソフトで閲覧可能なファイル形式で作成すること。HUSCAP 上では pdf で提供される。本文中には、「元データは電子付録 (Appendix A) に示した。」などのように、図表と同様にこれらの付録を引用する。

これらの付録も審査の対象となるので、投稿時に電子ファイルを電子メールもしくは CD-ROM 等の電子媒体により委員会 (図書担当) に提出する。

提出にあたって

所定の表紙 (別紙様式) に必要な事項を記入した後、これを貼り付けた封筒にオリジナル原稿 1 部を入れ、委員会 (図書担当) に提出する。

受理済み最終原稿の提出

受理済みの最終原稿は、印刷した原稿 1 部および電子メール添付もしくは CD-ROM 等の電子媒体により、委員会 (図書担当) に提出する。

校正

校正は二校まで著者が行う。校正の記号は日本工業規格印刷校正記号 (JIS Z 8208-1965) により、朱書する。校正は誤植を訂正するのが目的であるから字句の改変は避ける。

| | |
|-------|--|
| *掲載順位 | |
|-------|--|

北大水産学部 研究彙報・紀要
(第 巻 号 原稿)

| |
|--------------|
| 支払予算名称(研究経費) |
| |

| | |
|--|---|
| 彙報 () 報文(Original Paper) () 短報(Short Paper) () その他 | 紀要 () 報文(Original Paper) () 総合論文(Review Paper) () その他 |
|--|---|

| | |
|----------|--------------|
| 連絡担当者・氏名 | メールアドレス |
| | @ |
| 所属講座・部門等 | 電話番号 (内線) |

| | | |
|------------|---------------------|--|
| 著者名 | 和文 (英文論文については不要) | |
| | タイプ 英文 | |
| 所属 | | |
| 表題 | 和文 (英文論文については不要) | |
| | タイプ 英文 | |
| 柱文 (表題) | ※表題と同じ言語にすること | |
| キーワード | | |

| | | |
|------|-----------------|-----|
| 原稿枚数 | 本文 (和・英) | ページ |
| | 英文要旨 (Abstract) | ページ |
| | 図説明文 | ページ |
| | 図 (Figure) | 枚 |
| | 表 (Table) | 枚 |

| | |
|--------------|--------------|
| * 受付日: 年 月 日 | * 受理日: 年 月 日 |
|--------------|--------------|

* 印の欄は編集出版委員会が記入します。

- 経理責任講座等が負担する経費は以下のとおり。
- ・規定のページを超過した超過ページ分の経費
 - ・その他, PDF作成工程において, 通常論文より特別な経費を必要とした場合